



挑戦！リサーチデベロップメント in 筑波大

藤根和穂 筑波大学URA研究支援室

fujine1016@gmail.com
fujine.kazuho.fw@un.tsukuba.ac.jp

Research Development

“リサーチデベロップメント”とは？

未成熟の研究および研究アイデアに方向付けをし(地均し)、目的達成に向けたTeam buildingを進め(種まき)、適切な研究費の投入を支援しながら(水やり)、研究者と協力して研究を軌道に乗せる。

<必要なスキル>

- ◆ ファシリテーション
- ◆ プロジェクトマネジメント
- ◆ リサーチアドミニストレーション (競争的資金申請書作成)
- ◆ 情報収集・分析・企画
- ◆ 語学力・交渉力・想像力

Introduction

リサーチ・アドミニストレーターが担う仕事の一つ『競争的資金獲得支援』。その実際は、リサーチデベロップメント (RD) とリサーチアドミニストレーション (RA) の2部からなり、RD支援への期待は徐々に増していると感じられる。

一方、RDとは何か？どうあるべきか？について、情報交換し、議論し、RD技術を進化させる機会は乏しい。筑波大学URA研究支援室は、カリフォルニア大学アーバイン校・リサーチデベロップメントチームとの交流機会に恵まれ、日米両国で3つの研究費申請に取り組んできた。最も成功しているプロジェクトを例に、RDについて考える。

Analysis

研究成果(シーズ)を整理し、新しいアイデアを研究者から引き出す。 ※何がやりたい？
研究費獲得状況、共同研究実施状況等を分析。
テーマの優先順位付けを行う。

Design

1年後、3年後、5年後の社会における研究の位置付け(社会ニーズとのマッチング)、組織の未来像を明確に。 ※どうなりたい？
目標到達へのステップを確認。
研究費等の必要要素を検討。

Develop

研究Team創り & 研究費獲得。
異分野研究者、他大学研究者、海外研究者などあらゆる連携可能性を探る。
<国内・海外RDプロとの連携>
研究者ネットワークに頼らない、RDプロ間の協力体制の構築が鍵。

Implement

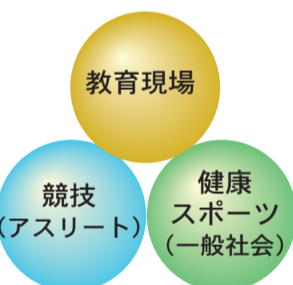
研究者：
共同研究の推進。
RDプロ：
戦略立案の継続(連携促進ほか)。
研究資金の継続投入支援。
スピノフプロジェクトの支援。

Active Project

【例：筑波大学体育系とカリフォルニア大学アーバイン校とのRD】

<基盤となる研究プロジェクト>

- ◆ 文部科学省特別経費
「ヒューマンハイパフォーマンスを実現する次世代健康スポーツ科学の国際研究教育拠点」



【目標】
運動と脳・睡眠・栄養の統合研究により
「活力低下問題を解決」

STEP 1 Analysis & Design

『運動と脳(認知)』の研究を抽出。

※ 国際連携を通じて中長期的に安定して研究が進められる基盤の形成を目指す事に。
カリフォルニア大学アーバイン校RDオフィスに協力を依頼。脳イメージング解析の若手PIとのマッチング成立、STEP 2へ。



STEP 2 Development ①

<外部資金申請>

- ◆ 『頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム (JSPS)』

- <申請目的>
- 世界トップクラスの解析技術習得
 - 3カ国4研究機関間ネットワーク構築

STEP 3 Development ②

<外部資金申請>

- ◆ 『日米科学技術協力事業「脳研究」分野』
米国側はNIH資金 (R01 grant) の補助資金として申請。

- <申請目的>
- 解析技術・最新知見の交換(連携強化)
 - 新たな研究テーマの創出

※ 日米申請書間の整合性確認、申請書(日・英)作成、各種補足資料作成、米研究者との連絡調整をURAが担当(約2週間でNIH申請終了)

Essentials for International RD

1) 必要性

研究者や研究室、あるいは機関レベルでの研究戦略(特に中長期的戦略)上、国際RDの必要性が明確であること、また相手方機関が得る利益を説明できる事が重要。

2) 体制作り

海外研究連携に係る作業は、少なくとも政治レベル、研究レベル、支援レベルの3つの異なるレベルを含む。各レベルのスペシャリストを含む“チーム体制”の構築により、関係部署間の情報流通の効率化を図り、的確な情報を素早く発信する事が国際コミュニケーションの円滑化に繋がる。

3) ノウハウと情報の蓄積

それぞれの国で、あるいは2国間のマッチングファンドで、競争的資金の申請はスピードが重要。
米国(NIH、NSF)の申請書は補足資料の多いことで有名だが、必要書類の大部分は毎回同じであり経験を重ねる毎に書類のひな形が蓄積され対応も早くなる。国際申請に特化した職員の育成も十分可能である。

